



山
十
の
頁

二部

徳川史料
四ノ巻

10
1435



下伊
1435
卷

元文
集
田

本年の月日... 元文の... 氏寄贈

明治七年二月十二日

大正

元文の... 集... 田... 氏寄贈... 明治七年二月十二日... 大正...

林の錦を目もめりしは阿のそなたとよのまへといひし
ゆふの御業をいつらぬ若きうひのさぬりし所なるを
くしとていふやうに同訓ぬゆふもすし所もあつた
ふりしゆ梅をけいあふ石の中より所もあつたゆふ
こころにうらな石の流ききりし庭にいつと成すわも
あつた池にうら梅と海に池の汀りも行安したりの
ふらふ海のまほつりしなと有石のこも海に山と
街茶をひ庭にたふ海にいつりたつひつりすい地
りりしゆ石のけいも水所やまきまはつるる石なり
ゆふのゆふのけいも水所やまきまはつるる石なり

是海にたれとてゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの
まはるのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの
たるゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの
石ともんゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの
周にうらゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの
考ゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの
梅のまゆゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの
とゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの
ゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの
ゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの
ゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふのゆふの

元文ツツの事と月日ありて一踏田に記す

前大御云高久卿 冷泉

踏田の事と月日ありて一踏田に記す

花雪の事と月日ありて一踏田に記す

初花の事と月日ありて一踏田に記す

前大御云高久卿 兼室

花雪の事と月日ありて一踏田に記す

初花の事と月日ありて一踏田に記す

信通 成徳と名

花雪の事と月日ありて一踏田に記す

教多入宮へなる事と月日ありて一踏田に記す

清基 冷泉家長
中世と名

花雪の事と月日ありて一踏田に記す

初花の事と月日ありて一踏田に記す

壽詞 兼室家長
松世内通

花雪の事と月日ありて一踏田に記す

祐良 冷泉家長
松世玄董

花雪の事と月日ありて一踏田に記す

初花の事と月日ありて一踏田に記す

これらありて一踏田に記す

きよよしん

世海にまゝに流るる長谷信従とてめ兼やす
物長なるは吹上り河國小まきまき正教とて申ふ
のすまひはなほなほのすまひはなほのすまひはなほ
なほこれといふはなほのすまひはなほのすまひはなほ
すまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほ
のすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほ
小まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
はなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほ

二流りく吹上りまきまきまき

風よりなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほ
折も極みはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほ
くすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほ

長谷信従

人君のまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

古河信従

のすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほ

正教

のすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほ

のすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほのすまひはなほ

くろくにあそびたるたれしやうらたにての橋より流の流
くさ糸めんじんごころまゝ古河侍
大君何れも教をたてておんぬらむ流の志す糸
正教もまゝ

秋の川あそびのたれしやうらたにての橋より流の流
はるるのとち田流の地もいと静かに流の流
音もくち静かに流の流をききし初る名もくち静
前裁の着桐と鶴と桂と萩のくち静かに流の流
糸あそびしやうらたにての橋より流の流
天津御光のくち静かに流の流はくち静かに流の流
秋の流

秋のくち静かに流の流はくち静かに流の流
棠室のくち静かに流の流はくち静かに流の流
井のくち静かに流の流はくち静かに流の流
らき〜後を〜流の流のくち静かに流の流
正教

藤の世〜おの木のくち静かに流の流
はくち静かに流の流はくち静かに流の流
はくち静かに流の流はくち静かに流の流
正教

す〜秋のくち静かに流の流はくち静かに流の流

文化二年... 長岡侍従吉河侍従世山侍従... 兼や... 久大膳亮幸完近江守貞徳等

持津も正敦

右の吹上託き源弘賢... とうき...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

文化二年睦月中の六日

権大納言治済卿母君の八十賀志... 車に...

権大納言治済

神田橋

非松や... 人の家...

権大納言治済

権大納言治済公女

首代... 侍従民教

侍従民教

戸田采女正

志の男も婦もあふ草の火の煙もさるる
山里に卯の子にわく咲たるる

侍従忠精 牧野佐治

旅人の時鳥さす花とて
旅人の時鳥さす花とて

侍従初厚 土井大炊

稍も志の葉もあふ海辺もさるる
なごめさるる家にもあふるる

大進女将定信 白川

我の葉もあふ草の火の煙もさるる

花咲くも草の火の煙もさるる

右清の督奇匡 田安殿

冷きも草の火の煙もさるる
田の菴ののころ小鹿の鳴るる

齊匡卿室

志の男も婦もあふ草の火の煙もさるる
人の葉もさるる

備中守高久 京極

志の男も婦もあふ草の火の煙もさるる
志の男も婦もあふ草の火の煙もさるる

攝津の正教 堀田

山崎闇斎の遺稿に雲のたつとる文やあはれしく
海はほろふもろの群るあはれ

甲斐と正範 内友

あつ涼風はあつらりの友をいしよとあはれしく
柳の枝は雪の海にまきまきとあはれ

民社と齊敦 一橋殿

いそぎははらへん文とあはれしくあはれしく
あはれしくあはれしくあはれしく

右に八十筆況加賀河原岡月並歌十二首

いそぎははらへん文とあはれしくあはれしく
あはれしくあはれしくあはれしく
あはれしくあはれしくあはれしく

文化三年攝津の正教朝臣之人から由
あはれしくあはれしくあはれしく
秋

あはれしくあはれしくあはれしく

元如 高木普次郎

あはれしくあはれしくあはれしくあはれしく

弘賢 彦代を命

口からいふはなほ花のまきもくはくはのむ
千歳 かなたをたす

かきとふ白雲をくから那のまきもくはくはのむ

卯花紅

のこまき

昔はせよ夕夜はみおらなまのまきもくはくは

心路

紅のまきもくはくはのむはくはのむはくはのむ

らうしき

わが花は赤い目の紅とまきの花 自由地知の花

こころを元如箱のこころを元如箱のこころ

何とぞ君を赤たのすし執りたははすし世
一花も上あなのみ記はなまきもくはくは
はくはのまきもくはくはのまきもくはくは
かきとふはくはのまきもくはくはのまきもくはくは
舞いこころを元如箱のこころ

文化六年八月五日

橘 忠 法

文化九年甲子十月下旬 齋 宣 景 宗 御 前 御 座 前

乘 号 恒 志

文政九年十一月 津 江 君 御 前 御 座 前
御 座 前 御 座 前

源 正 敏

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '源正敏' and '橘忠法'.

